

〔科目名〕 地域社会論Ⅱ	〔単位数〕 2単位	〔科目区分〕
〔担当者〕 佐々木 てる Sasaki Teru	〔オフィス・アワー〕 場所: 授業開始時に指示 場所: 授業開始時に指示	
〔科目の概要〕 青森県では少子高齢化が進み、人口減少、短命県などが問題として指摘されている。また、若者の県外流出なども今後の県の将来を考える上で重要な問題となっている。同時に青森県は地域文化や産業の点で日本を代表するものが存在する。そのため県の取り組みとしても「課題を克服」「強みをとことん生かす」ためのアイデアが重要視されている。 この授業では、上記のような認識を前提に、海外からの観光客の誘致、外国籍者の労働力の導入、国際的なマーケットへの参入、永住外国人の現状といった視点からそれらの課題を捉えなおすこととする。具体的には下記のテーマが中心となる。 (1)「交流人口」:インバウンドを中心とした海外からの観光客についての分析、ニーズの把握。 (2)「循環人口」:いわゆる単純労働で海外から来日、もしくは青森に来ている外国籍者の現実と実情。 (3)「共生人口」:人口減少地域に対応するための外国人、移民政策について。永住、帰化、国籍などに関して。 これら3つのテーマを学ぶことによって最終的には、日本型もしくは青森としての多文化共生、共創社会を構築していく視点を醸成させることにする。		
〔授業科目群・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕 決定的な人口減少を迎えている青森県の住民として、その問題の根幹を理解し、解決するための手立てを考えることは急務の課題である。そしてそのことは、次世代を生きる人間としての責務であり、今まさに問われている問題といえる。 日本国内の人口減少を補う人材として、海外からの移住者の受け入れは一つの選択肢であり、そこで必要とされている議論を学ぶことは重要である。人口減少解決のための新しい視点を学ぶことができるだろう。そして同時にこのことはワールド・ワイドで活躍するための基礎となることを学ぶことにもつながる。そして海外から人に来てもらう、もしくは海外に青森を売り込む際に、授業で扱う題材を知ることは有益な情報となるだろう。		
〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕 人口減少という問題をもう一度捉えなおし、その根本問題、解決策を提示できるような思考を養う。特に海外からの人材の導入、もしくは海外への売り込みという視点を自分なりに発展させていくことが目標となる。同時に海外の事例を学び、日本社会に応用可能か、またその際の課題などを自らの視点で指摘できることも目標となる。 中間目標 前半は特に、人口減少問題のレビュー、県内の外国籍者の実態など基礎的な知識や考え方を学ぶ。そのため、グローバル化や市民権、多文化共生に関する理論的な視点も学んでもらう。		
〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕 授業終わりにコメント用紙を書いてもらい、そこでの指摘を授業に取り入れ、改善を行っていく。 コメント用紙の配分点のつけかたなど、成績評価の方法をより明確に提示する。特に第一回目の授業において方針を明確にしていく。		
〔教科書〕 特になし		
〔指定図書〕 特になし		
〔参考書〕 授業時に紹介する		
〔前提科目〕 特になし		

<p>〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・提起的にコメント用紙を書いてもらい、評価を行う。 ・授業中盤で確認試験を行い、理解度をはかる。 ・最終に試験を行う。出題内容は授業内容に関するもの。 主に論述式で、知識および解釈力、主張を問うものとする。 <p>毎回出席はとる予定である。そのため当然のことではあるが授業は出席することが大前提である。 特に第一回目の授業は評価の方針、内容に関する確認などを行うため、本講義を受講予定のものは必ず出席すること。</p>	
<p>〔評価の基準及びスケール〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・試験 60%、コメント用紙・小テストを 40%として採点する。 <p>A～F の評価は本学の規定に準ずる。</p>	
<p>〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕</p> <p>なによりも自分の住んでいる地域の文化や産業について、積極的に興味を持ち、知識を増やしてほしい。授業で伝えたこと以外でも、興味のあることを自分自身で調べる姿勢が望まれる。</p> <p>また知り得た知識や考えなど、意見を求める機会も与える予定でいるので積極的に発言してほしい。自分と周囲に住んでいる人、自分が住んでいる社会について、主体的に働きかける気持ちを常にもって授業に参加してほしい。</p>	
<p>授業スケジュール</p>	
第1回	<p>テーマ： 世界から青森へ、青森から世界へ</p> <p>内 容： ガイダンス 導入として人口減少対策としての外国人・移民政策の必要性を学ぶ</p>
第2回	<p>テーマ： 人口減少問題と外国籍労働力(1)</p> <p>内 容： 人口減少問題の根幹:理論的視点を考える。また労働力確保の方策としての ICT の導入と外国人労働者の導入について考える。</p>
第3回	<p>テーマ： 人口減少問題と外国籍労働力(2)</p> <p>内 容： 外国籍労働力を日本に積極的に導入するにあたり、その前提となるような外国人・移民政策についての理論的な視座を紹介する。</p>
第4回	<p>テーマ： 人口減少問題と外国籍労働力(3)</p> <p>内 容： 前回に引き続き、外国籍労働者・移民は人口減少対策の切り札になるのかを考える。特に市民権理論と多文化共生の理論を紹介し、外国籍労働者・移民の増加こともなう課題と問題を考える。</p>
第5回	<p>テーマ： 交流人口(1)</p> <p>内 容： インバウンドとはなにか、その問題点を考える。特に青森県の事例を中心に行う。</p>
第6回	<p>テーマ： 交流人口(2)</p> <p>内 容： 青森県内の祭を中心に、その国際性の在り方について考える。</p>
第7回	<p>テーマ： 循環人口(1)</p> <p>内 容： 技能実習制度をとらえる。特に青森県、八戸市や弘前市の事例を中心に、技能実習制度とはなにかを学ぶ。</p>
第8回	<p>テーマ： 循環人口を考える(2)</p> <p>内 容： 送り出し国の現状を紹介し、国際的な労働力移動について学ぶ。特にベトナムの事情を紹介する。</p>
第9回	<p>テーマ： 青森県の共生人口を考える(1)</p> <p>内 容：三沢の米軍基地の事例、ネパール人の事例、永住フィリピン人と帰化の事例などを通じて青森の共生人口を学ぶ。</p>

第10回	<p>テーマ：青森県の共生人口を考える(2)</p> <p>内 容：青森以外の永住者と共生に関する事例をとりあげ、青森県との比較を行う。</p>
第11回	<p>テーマ：グローバル時代の移民政策(1)</p> <p>内 容：多文化共生に関する現状を、世界と日本を比較することによって学ぶ。特に理論的なものとしてエスニシティの概念を学ぶ。</p>
第12回	<p>テーマ：グローバル時代の移民政策(2)</p> <p>内 容：世界の移民の事情などを海外の事例を通じて学ぶ。特にアメリカ合衆国、オーストラリア、ニュージーランドなどの事例を紹介する。</p>
第13回	<p>テーマ：多様性のある地域社会に向けて(1)</p> <p>内 容：外国人・移民政策の根幹として国籍政策や帰化というものについて学ぶ。外国人から国民へ編入するための制度的な視点を学ぶ。</p>
第14回	<p>テーマ：多様性のある地域社会に向けて(2)</p> <p>内 容：現在の日本の多文化、多民族的な状況を確認し、マルチ・エスニック・ジャパニーズという概念を学ぶ。</p>
第15回	<p>テーマ：青森から世界へ、世界から青森へ</p> <p>内 容：青森県の強みを再度考え、課題を考察する</p>
試験	